

一貫教育校の広場

館山遠泳合宿と幼稚園ライフセイビングクラブ

●幼稚園 教諭

萩原隆次郎 はぎわらりゅうじろう

幼稚園の水泳（遠泳）は、1893（明治26）年頃、鎌倉や金沢海岸で行われた「水泳訓練」という1カ月の長期にわたる練習記録に始まる。大正・昭和と場所や形態を変えながらも遠泳は続いたが、1958（昭和33）年のプール完成と共に姿を消した。

アンカーにロープを結んだり、シュノーケリングや、竹竿作り、その自作の竿を使った海釣り、漁協に許可を得た仕掛け網など、多くのアクティビティを組み込んでいる。練習では、10名程度の班に分かれ、各班にコーチを2〜3名つけている。4日目の午後にはメインイベントの遠泳

過去半世紀にわたるプールでの水泳授業により、幼稚園生は競泳四種において優秀なタイム成績を残すようになったが、反面、大原で仲間と共に泳ぐ機会には恵まれなかった。そこで、2012年7月、千葉県館山市見物海岸にて「館山遠泳合宿」として遠泳を復活させた。コースロープを挟んだ相手と1/100秒を争うのではなく、前後左右を泳ぐ仲間と隊列を崩さぬように互いのスピードを合わせ、長時間ゆったりと泳いだ末、同時にゴールする体験をさせたいと考えたためだ。



が行われる。2000〜3000m、時間にして1〜2時間の遠泳を、その年の児童の泳力や人数規模などを勘案して毎年方針を立てて実施しており、伴泳コーチの人数や船の数をかなり多めに用意して安全を確保している。このコーチは幼稚園の教員のみならず、大学体育研究所、体育会水泳部葉山部門のOB・現役大学生・高校生、幼稚園BLS（Basic Life Support＝一次救命処置）講習の講師で泳ぎを得意とする多数の医師、普通部水泳学校を長年支えたコーチ陣、幼稚園や普通部卒のOB・OG、塾高の引率教員、大学職員など、幅広い分野や立場の人々が、全員「コーチ」と呼ばれ、時間を割いて完全なボランティアとして参加している。このコーチ

4泊5日の合宿には、6年生の有資格者（前年度までに、プールでの水泳テストにおいて1級もしくは2級を取得済みの者）のうち希望者が参加し、今のところ毎年20〜30名程度の児童が館山の海を満喫している。立ち泳ぎ（巻き足）、のし（あおり足）、磯での潜水（ジャックナイフ）、遠泳で使用する顔上げ平泳ぎなど、海で使える基礎的な泳法を教えながら、漕艇訓練をしたり、

集団を「幼稚園ライフセイビングクラブ」と言い、中でも葉山部門による泳方面でのサポートと、幼稚園BLS講師陣による医療面での下支えは大きな二本柱となりつつある。今後、より多くの児童を受け入れる体制を整えるために、幼稚園ライフセイビングクラブのメンバー拡充と海でのスキルアップが求められている。

幼稚園

横浜初等部

普通部

中等部

湘南藤沢
中等部・高等部

高等学校

志木高等学校

女子高等学校

ニューヨーク学院
（高等部）